

（第1面）

## 産業廃棄物処理計画書

令和5年 6月 28日

茨城県知事 大井川 和彦 殿

提出者

住 所 茨城県古河市北利根 14-2

氏 名 ジャパンフリトレー（株）

代表取締役 松田 光弘

電話番号 0280-92-3211

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称 ジャパンフリトレー株式会社

事業場の所在地 茨城県古河市北利根 14-2

計画期間 令和5年4月1日 から 令和6年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類

09 食料品製造業

②事業の規模

15,431,000 千円（売上金額）

②従業員数

250 人

④産業廃棄物の一連の処理の工程

汚泥・・・発酵堆肥化、焼却  
 動植物性残渣・・・発酵堆肥化、焼却  
 廃プラスチック・・・RPF化、焼却  
 木屑・・・焼却  
 ガラス、陶磁器屑・・・破碎  
 蛍光灯・・・選別、破碎→再生  
 廃油・・・油水分離→再製品化  
 廃酸・・・中和、蒸留、油水分離



（日本工業規格 A 列 4 番）

## (第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 生産本部長(廃棄物統括処理責任者) → 現場担当者(廃棄物管理担当者)			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		別紙1添付
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		別紙1添付
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		別紙2 添付
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

② 計画	【目標】 別紙 2 添付		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

《別紙 1》

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 前年度実績(2022年度)			
産業廃棄物の種類		排出量	これまでに実施した取組
①現状	汚泥	1134.78 t	脱水汚泥の含水率維持 シーズニング汚泥の削減
	動植物性残渣	432.98 t	各倉庫での製品廃棄の減少
	廃プラスチック	110.98 t	生産時使用プラスチックと一般ごみの分別の強化 製造元への空容器返却
	木くず*	0.79 t	木パレットの使用の削減
	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	0 t	LED化
	廃油	0.0508 t	廃棄の削減
	廃酸	0 t	廃棄の削減
目標(2023年度)			
産業廃棄物の種類		排出量	今後実施する予定の取組
②計画	汚泥	1160 t	脱水汚泥の含水率の削減 排水処理の負荷軽減で汚泥、油の回収を始めたため増える 予定
	動植物性残渣	450 t	コーン廃皮ロスの有価への取り組み
	廃プラスチック	110 t	マテリアル、ケミカルリサイクルへのかじ取り
	木くず*	1 t	木パレットの使用の削減
	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	1 t	LED化
	廃油	0.25 t	廃棄の削減
	廃酸	0.1 t	廃棄の削減

《別紙2》

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

前年度実績 (2022年度)							
廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃プラスチック	木くず*	ガラス・コンクリート・陶磁器くず*	廃油	廃酸
全処理委託量	1134.78	432.98	110.98	0.79	0	0.0508	0
優良認定処理業者への処理委託量	234.6	403	84.43			0.0508	
再生利用業者への処理委託量	1134.78	432.98	110.98			0.0508	
認定熱回収業者への処理委託量							
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		41.73					
これまでに実施した取組 ・委託先の現地確認							
目標 (2023年度)							
廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	廃油	廃酸
全処理委託量	1100t	450t	110t	1t	1.0t	0.25	0.1t
優良認定処理業者への処理委託量							
再生利用業者への処理委託量							
認定熱回収業者への処理委託量							
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							
今後実施する予定の取組 ・委託先の現地確認 ・廃プラのサーマルリサイクルからマテリアルリサイクルへの取り組み ・動植物性残渣の有価への取り組み							

②計画

①現状